

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己                 | 外部  | 項目  | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|--------------------|-----|---|--|---|-------------------|
|                    |     |   | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>I. 理念に基づく運営</b> |     |   |  |   |                   |
| 1                  | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている                            | 地域密着型サービスの意義をふまえた理念を作り、日々理念に立ち返り実践できる事を目標にしている。朝礼時は法人の理念・事業所の理念を唱和している。                                      | 法人理念の他に「家庭的な環境と地域住民との交流の下で一人一人の気持ちを大切に、その人らしい生活を支えていきます」というホームとしての理念がある。経験年数の違いはあるが福祉の仕事に対する志が高く、職員は理念を理解し実践している。利用者との関係に慣れてしまい業務を優先しないように職員間でお互いに声を掛け合い注意を喚起している。  |                   |
| 2                  | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している                            | 本年度の納涼祭は地域のお祭りと重なってしまった為、自治会の皆さんに参加いただけなかったが、日々ボランティアの訪問や地域の皆さんの見学がある。ご近所の皆様にお会いした時はご挨拶をする中で少しずつ地域に溶け込み始めている | 法人として自治会に加入している。市や地域の情報は運営推進会議の時に市担当者や自治会長からいただいている。傾聴、草笛、フラダンス、ハーモニカ、ギター等のボランティアの訪問がある。今年の納涼祭にもボランティアの参加があり楽しいお祭りとなった。地域のお祭りと重なってしまい来年にむけての反省点になったという。野菜・果物の差し入れや散歩途中の近所の方と犬がホームに立ち寄るなど、地域とつながりが少しずつ広がっている。  |                   |
| 3                  |     | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている                          | 学生さんのボランティアの受け入れに協力等しているが、本年度は希望が無くまだ受け入れをしていないが要望があればいつでも受け入れをしたい。地域の皆様に向けた認知症の理解や支援など伝える場所を持つことは今後の課題である   |   |                   |
| 4                  | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている       | 2か月に1回運営推進会議を行い状況報告をしている。地域の皆様に相談し協力いただきながら施設運営している。消防訓練に今年初めて地域の皆様に参加いただいたり、地域のサークルの紹介もいただいている              | 2ヶ月に1回奇数月の月末(月曜日)に行っている。利用者代表、家族、自治会長、民生委員、第三者委員、市職員、地域包括支援センター職員で構成され、業務報告、活動報告、利用者状況報告、職員の異動などが伝えられている。当日の議題等の内容が細かくプリントされ、委員が理解しやすいように工夫されている。今年の大雨による他県の被害などから委員の市への働きかけにより局地的大雨による増水対策としてホーム傍に集水桝が設置された。 |                   |
| 5                  | (4) | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる                  | 市派遣の介護相談員に3か月に1度訪問していただいている。認定調査の際は立会いし情報を伝えている。運営推進会議では日頃の様子を報告する中で協力関係の構築を行っている。                           | 介護相談員2名が訪問し利用者とは過ごし、退去時に利用者との話の内容等を職員に伝えている。介護保険の更新申請や区分申請の代行も家族よりの依頼を受け行っている。  |                   |
| 6                  | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束について正しく理解できるように職員研修を行い意識を高めている。玄関は施錠しているがご利用者の様子を見て一緒に散歩やベランダでの気分転換を行っている。また、ご利用者の行動の背景や意味を探るようにしている。    | 法人の年間研修計画に身体拘束について組み込まれている。外出願望のある利用者には外へ出たい理由を聞くと話してくれるのでできることは叶えるようにしている。コーヒーを飲みに出かけたいという方には職員と一緒に近くのハンバーガーショップに飲みに行くなど、細めに対応しており、利用者も満足している。センサーマットを使用することなく、ベッドの柵などでの拘束もしていない。                            |                   |

グループホームかわべちよう敬老園

| 自己 | 外部  | 項目   | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|----|-----|--|---|---|-------------------|
|    |     |  | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7  |     | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている        | 毎年虐待防止の研修を行っているが、本年度も法人による高齢者虐待防止の研修が1月に予定されている。日ごろから身体・言葉による虐待防止に努めると共に何気なく行う言動が虐待につながるものではないか皆で振り返りをしている        |   |                   |
| 8  |     | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している    | 外部研修に参加しそれぞれ学ぶ機会を持っている。成年後見制度を使っているご利用者もいるので協力・支援出来る様に今後も学んでいきたい  |   |                   |
| 9  |     | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている                         | 契約の締結時は重要事項の詳しい説明を行い納得と了承をいただいている。改定の際は説明と共に文章でもお渡し了解を得ている  |   |                   |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている                     | 運営推進会議や家族会で意見や要望を出してもらっている。介護相談員の訪問時にご利用者に要望や意見を聞いて貰っている。家族会で出された要望などは運営推進会議で報告したり職員に周知し改善している。                   | 利用者は穏やかな表情で毎日を過ごしている。ほぼ全員が言葉やしぐさ、簡単な言葉で意見などを伝えることができる。家族の訪問はそれぞれ回数に違いはあるが納涼祭や12月の家族会には多くの家族が参加している。家族会ではホームからの連絡と家族との意見交換、食事会などを行い、家族との意思疎通を図っている。毎月、行事の写真や職員の異動、予定などを掲載した便りを家族へ郵送している。 |                   |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている                                      | スタッフ会議や個別面談の時間をもち意見を聞いている。管理者と職員が1:1で話す時間をもつけ意見やアイデアを聞き日々のケアの見直しや事故防止に取り入れている。                                    | 毎月1回、併設小規模多機能居宅介護事業所と合同で職員定例会を開催している。合同での業務連絡などが行われ、その後、グループホームに別れ利用者のカンファレンスを行っている。職員は年間目標を立て半年毎に評価も受けている。法人内に健康管理課があり職員の健康管理だけでなくメンタル面の相談もできるようになっている。                                |                   |
| 12 |     | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている      | 法人の人事評価制度が本年度より開始されている。努力や実績を評価してもらう事が出来、また勤続年数に応じたりフレッシュ休暇等福利厚生が整っているので安心や楽しみを持って働くことができている。                     |   |                   |
| 13 |     | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている         | 法人は法人内外の研修を受ける機会を設けており、働きながら学ぶ機会を得る事ができている。資格取得のために情報の発信や研修の機会などの支援と共に資格取得補助金制度もある。                               |   |                   |
| 14 |     | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 法人内のグループホームへの交換研修が行われている。また、27年度から上田市内のグループホームで作るフレンド会に入れて頂き相互評価や報告会に参加している。他の事業所を見せて頂いたり交流する事で良い学びの機会を得る事が出来ている。 |   |                   |

グループホームかわべちよう敬老園

| 自己                           | 外部  | 項目   | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|------------------------------|-----|--|--|---|-------------------|
|                              |     |  | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> |     |  |  |   |                   |
| 15                           |     | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 安心して入居頂けるように事前にご本人の希望や生活の様子情報を得る様にしている。入居後も心身・表情の観察に努め不安無く生活が始められる様にしている。                    |   |                   |
| 16                           |     | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている            | 入居前の面接時に不安なことなどお聞きしている。入居後も近況などを面会時やお手紙で報告しご家族も安心出来る様にしている。要望等は職員間で共有している。                   |   |                   |
| 17                           |     | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている        | 入居前に利用していたサービスがいきなり途切れないよう時々訪問したり、また前のサービスの職員やご利用者と短時間でも一緒に過ごす時間を持つ様にしている                    |   |                   |
| 18                           |     | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている                        | 台所仕事や洗濯干し・洗濯たたみ等家事の役割やレク・会話の中で力が発揮できるように関係を築いている。毎日の生活の中で利用者にお礼の言葉を伝える事を大事にしている。             |   |                   |
| 19                           |     | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている         | 本人の日頃の様子を面会時などにお伝えしている。又、家族に対する本人の思いの言葉や表情を記録して伝えるようにしている。入居後もご家族と共にご利用者を支えていく関係づくりを大事にしている。 |   |                   |
| 20                           | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている                     | 親戚や近所の方の面会をゆっくり楽しんでいただけるようにしている。また、家族や親戚との温泉旅行や法事への参列・墓参りなど今までしてきたことが継続できるように支援している。         | 正月やお盆に帰宅したり、お墓参りに出かける利用者がいる。馴染みの場所や店へ家族と出掛けたり、外食などを楽しむ方もいる。毎回、家族と一緒に選挙の投票に行かれたり、友人との年賀状のやり取りを継続されている方もいる。また、利用者と職員が偶然同じ町での知り合いでホーム利用に伴い再会し、利用者から昔と同じように「〇〇ちゃん」と職員が呼ばれるなど、地域密着型のグループホームとしての良さが窺える。 |                   |
| 21                           |     | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている                  | 利用者同士の関係を把握できるように観察し、トラブルになりそうなきはさりげなく別の仕事や役割をお願いするなどして調整役をしているが、ご利用者同士が支え合う場面も見られている        |   |                   |

グループホームかわべちよう敬老園

| 自己                                 | 外部   | 項目   | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
|                                    |      |  | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22                                 |      | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている                    | 契約が終了しても、相談がある時はいつでも訪問や電話を頂ける様お伝えし、今までの関係性が途切れないよう努めている   |  |                   |
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |      |  |   |  |                   |
| 23                                 | (9)  | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している   | 本人から直接伺う機会をを持つとともに、ご家族とお話をする中・相談する中で本人の希望の把握に努めている。言葉にできない時は本人の表情や日常の何気ない一言を大事にし希望や思いを検討し日々のケアに活かす様にしている。 | 今年から職員は出勤したら利用者一人ひとりに挨拶を行ってから仕事に入るようにしている。「外に出かけてコーヒーを飲みたい」、「お茶より牛乳のほうがいい」、「鮎がなめたい」などの希望を受け、家族と相談し対応しており、希望に沿い牛乳を定期的にとるようになった利用者もいる。見たいテレビ番組の希望などにも応じ、利用者同士の気遣いもあり職員は見守りながら支援している。 |                   |
| 24                                 |      | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている                                       | 生活歴を把握する事で本人の思いや希望に近く事が出来ると考える。入居時には家族の協力を得て生活歴や好きな物嫌いな物シートを記入してもらったり、日々面会等でお話を伺っている。                     |  |                   |
| 25                                 |      | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている   | 日中・夜間の様子や表情・言葉を個別の日課表に記録し職員は共有している。できることを大事に支援しまた、出来ないことで困る事や辛い思いをしないようさりげなくお手伝いするなどしている。                 |  |                   |
| 26                                 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人・家族に暮らしの希望を伺うとともにスタッフ同士カンファレンス時に意見や情報を出し合い介護計画に反映させている。   | 毎月スタッフ会議でモニタリングを行い気づきなどを上げてもらい、計画作成担当者が定期的に短期・長期目標を見直している。家族面会の折にも希望を聞きプランに反映している。利用者の居室担当制をとっているが今後は居室担当職員がプラン作成に係われるようにしていきたいという意向がある。   |                   |
| 27                                 |      | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている                        | 日々の様子や何気ない一言や表情を個別の日課表や記録に記入し、その後のケアやプランに活かせるようにしている。日々のプラン実行表もあり毎日確認している。                                |  |                   |
| 28                                 |      | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる               | 家族の状況で受診の都合がつかない場合は職員が対応したり、ご家族に宿泊して頂くなど臨機応変柔軟な対応を心掛けている。   |  |                   |

グループホームかわべちよう敬老園

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|----|------|---|---|---|-------------------|
|    |      |   | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 |      | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している                                      | 入居前からお付き合いのある傾聴ボランティアに引き続き来園していただいている利用者がいる。  |   |                   |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している                                  | 入居後もなじみのかかりつけ医による医療を受けられる様にしている。受診時は情報提供を行っている。必要時は往診をしていただけるようになっている方もいる。緊急で家族対応が出来ない時は職員が対応し受診できるようにしている。 | かかりつけ医の継続や変更は利用者と家族の希望に沿い決められている。歯科の往診も行われている。24時間連絡可能な訪問看護師が1週間に1回訪れ相談したりアドバイスなどを受けることが出来るので職員は心強い。予防接種はかかりつけ医や協力医により行われ記録も個人ファイルに綴られている。  |                   |
| 31 |      | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している                          | 訪問看護と連携を結び1ヶ月に4回の訪問があり健康観察を受けている。体調に変化のあった時は早めの報告をして必要時は受診につなげている。訪問看護の健康観察訪問時は連絡表に記入し様子報告している              |   |                   |
| 32 |      | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院した際は、情報提供や交換をケースワーカーを通じて行っている。退院時は主治医による病状説明を家族と一緒に聞かせていただいている。退院準備はケースワーカーと連絡を取り合い受け入れ態勢を整えている。          |   |                   |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる  | 重度化した場合や終末期にグループホームで出来る事・出来無い事を本人・家族に説明している。グループホームで終末期を迎えた時は、家族の気持ちの変化や思いを受け止められるよう関係者と連携を持ち支援したい。         | 契約時に6項目からなる「重度化対応及び終末期ケア対応指針」を説明している。開設から2年7ヶ月になるが亡くなった利用者はいない。利用者の多くがホームでの看取りを希望されているが、その時になった時点で家族、医師、看護師、職員で話し合いを持ち意向に沿えるように体制を整えている。  |                   |
| 34 |      | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている  | 法人の研修で年に1回AEDを含めた救急対応を勉強する機会をもっている。また、スタッフ会議を利用し急変時や救急車要請時の対応・手順を確認している。                                    |   |                   |
| 35 | (13) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている  | 年2回の避難訓練や消防訓練を行っている。運営推進会議を通じ地域の皆さんに消防訓練に参加いただいたり協力体制をお願いしている。事業所内でアルファ米や缶詰め・水・カセットコンロの備蓄を整えている。            | 年2回の消防訓練が併設小規模多機能型居宅介護事業所と合同で行われている。10月に行った訓練には地域の方にも参加していただいた。訓練は避難訓練、通報訓練などを主に行っている。防火設備の定期点検も行われ、点検を行う会社の方が訓練に参加し指導もいただいた。地域との防災協定も結ばれ、また、備蓄もあるので災害時には地域の方の避難場所として施設を提供することもでき、お互いに支えあっていくことを確認している。 |                   |

グループホームかわべちよう敬老園

| 自己                               | 外部   | 項目  | 自己評価   | 外部評価   |                   |
|----------------------------------|------|---|--|--|-------------------|
|                                  |      |   | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> |      |   |  |  |                   |
| 36                               | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている                    | 言葉がけをするときは表情や声のトーン・口調にも気を付けるように職員で確認している。介助が必要な時は、さりげなく声を掛け本人が恥ずかしい思いや嫌な思いをしないよう努めている。                                     | 年間研修計画に「接遇」の研修が組み込まれ学んでいる。利用者への対応は親しみの中にも尊敬の気持ちを持ちながら対応し、お互いに楽しく暮せるようにしている。  |                   |
| 37                               |      | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている                      | 本人が自己決定でしたい事や食べたいものなど決定できるようにしている。選択しやすく伺うなど工夫している。  |  |                   |
| 38                               |      | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | おおよその流れはあるが必ず本人に声を掛け意志の確認をしてからおこなっている。家事仕事など本人のペースに合わせて慌てないように出来る様支援している。消灯時間やテレビの時間は決めず利用者の自由としている。                       |  |                   |
| 39                               |      | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している                                   | 外部の業者に理美容を委託しているが、本人の希望を伺い好みの色にヘアカラーをしたり、髪のカットが出来る様になっている。お化粧をしたり、スカーフを巻いたり本人のしたい事が継続出来る様に支援している。外出や行事の時はお化粧を楽しんで頂いている     |  |                   |
| 40                               | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている      | 野菜を切ったり卵を割ったり下準備や調理・盛り付け・片づけを一緒に行っている。また、味付けや味見をお願いしている。やって頂いた時はお礼の言葉を伝えている。   | 本部の管理栄養士が作成した献立で調理している。利用者には野菜の下ごしらえ、鍋や食器洗い、食器拭きなど、できることをお願いしている。盛り付けたご飯を利用者がワゴンで配っている姿も見られた。車椅子の方で可能な方は食事の時に備え付けの椅子に移乗して食事をしている。行事食として松花弁当やおはぎ、おやき等も登場している。 |                   |
| 41                               |      | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている           | 法人の栄養課のメニューを基本としているが、グループホームの利用者の好みやイベント食に変更するときもある。季節の野菜や果物などの頂きものも多いので活用させていただきご利用者に楽しんでいただいている。毎食の食事や水分の摂取量を記録して把握している。 |  |                   |
| 42                               |      | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている                    | 毎食後、口腔ケアが出来る様声掛けや物品の手渡しなど必要に応じて支援している。義歯洗浄剤等それぞれ必要な物品を使用できるように支援している。  |  |                   |

グループホームかわべちよう敬老園

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|----|------|---|---|---|-------------------|
|    |      |   | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている                              | 排泄のパターンを把握したり様子を見てさりげなくトイレにご案内している。一人一人検討し本人本位を大事に支援をしている。  | 自立されている方や介助を必要とされる方など様々であるが利用者に合ったさりげない声掛けに徹している。夜間、自身で起きてトイレへ行く方、また、厚めのパットを使用する方などがいる。   |                   |
| 44 |      | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる  | 排便チェック表を使用し排便を確認した時は記録している。便秘の場合は腹部マッサージをしたり医師より処方された便秘薬を服用して頂く。牛乳・水分や野菜など十分に摂って頂けるように声掛けし提供している。                   |   |                   |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている                        | 外出などの予定がある時は前日に入浴しさっぱりし外出できるようにしている。入浴の気分にならない方は時間を置いて声掛けしている。おおよその回数は決まっているが本人の希望を出来るだけ尊重できるようにしている。               | 1週間に2回予定しているが利用者の希望で3回入浴する方もいる。車イスの方は今年の夏より1階の小規模多機能型居宅介護事業所の機械浴を利用している。職員全員が機械浴の取り扱いの勉強を行い、時には小規模の職員の協力も得ながら、安全で快適に入浴していただけるようにしており、利用者や家族からも「ありがとう」と感謝されている。                    |                   |
| 46 |      | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している   | 日中はなるべく活動し夜間にぐっすり休めるように支援しているが、午睡が必要な方は適宜横になって頂けるようにお手伝いしている。午睡もベッドではなくリビングのソファがいい方はリビングでうたた寝していただいている。             |   |                   |
| 47 |      | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている  | 薬の処方や変更があった場合は訪問看護へ情報を提供している。薬をセットする職員と服薬介助する職員を分けダブルチェックし誤薬を防いでいる。スタッフ同士薬情で内容の確認もしている。                             |   |                   |
| 48 |      | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている                             | 日々の食事づくりや洗濯干しや洗濯たみ・肩たたきなど得意分野で力を発揮して頂き必ず感謝の言葉を伝えている。<br>ベランダで山並みを見る楽しみを持っている方や近所のモスバーガーにコーヒーを飲みに行くのを楽しまれているご利用者もいる。 |   |                   |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 希望にそってドライブや喫茶を楽しんで頂いている。歩いて近所のコンビニへの買い物にも出掛けている。御家族と外食やお茶を楽しまれたり、家族と自宅へ帰ったり、高原へのドライブを楽しまれている。                       | 利用者の平均年齢は88歳となっているが60代の利用者1名を除くと90歳を超えている。車イス対応の方が三分の一おり、歩行できる方もかなりゆっくりと慎重になっている。年間計画ではドライブによる外出が多く、花見、バラ公園や道の駅、外食などへ出かけている。天気の良い日には施設の駐車場なども含め近辺の散歩を楽しんでいる。夏場にはベランダで花火大会を見物している。 |                   |

グループホームかわべちよう敬老園

| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|----|------|--|---|---|-------------------|
|    |      |  | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 |      | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している  | 家族・本人の希望で少額のお金を持っている方もいるがほとんどの利用者はお金の所持はしていない。  |   |                   |
| 51 |      | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている   | お友達や親戚の方からの手紙が来るので本人に渡している。年賀状の返事を出したい希望があった時は支援している。電話の希望時は取次ぎしお話ししている。                              |   |                   |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | リビングのテーブルやいすは木を基調とし落ち着いた雰囲気がある。季節の置物や花や木の実・果物を飾り季節感を出している。温度・湿度を管理し気持ちよく快適に過ごせるように気を付けている。            | リビングにはテーブルや椅子の他にテレビが置かれ、その前にソファなどが並べられている。一角に畳敷きのコーナーがあり、窓のカーテンを利用者が開けることから一日が始まっている。利用者の集合写真や行事の連絡のチラシも貼られていた。ホームは2階に有り、ベランダからは花火や四季折々の太郎山などが見え、干し柿づくりなどにも活用されている。 |                   |
| 53 |      | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている  | ソファでくつろいだり畳のスペースのこたつで横になったりと自由に好きな場所で過ごせる。畳コーナーで洗濯物をたたんで頂くなど自宅に居る様に過ごされている。                           |   |                   |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている   | 居室になじみのたんすやテーブル・椅子また仏壇などが持ちこまれている。仏壇にお供えものをしたりなじみの椅子に腰かけリラックスされくつろがれている。家族の写真に囲まれている方もいる。             | ベッド、洗面台、タンス、押し入れが備え付けられている。利用者はテレビ、仏壇、テーブル、椅子など、自宅より持ち込み使いやすいように配置されていた。壁には塗り絵や家族の写真などが貼られている。居室で利用者同士がおしゃべりする姿も見られるという。  |                   |
| 55 |      | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している   | 居室入口に暖簾を飾り個性を出したり分かり易くしている方が多い。廊下やフロアは段差がないのでシルバーカーで歩行ができる。トイレも見やすいように絵で表示している。フロアが広いので安全に歩行運動をされている。 |   |                   |